第4章

# 英英辞典とGoogle検索でfruitの謎を解明する

## Introduction

英英辞典と並んで役立つツールを、すでに何度か使いました。Google 検索による「件数比較」。
この章では、英英辞典と Google 検索の件数比較を駆使しながら、ネイティブ話者のあいだでも異なる意見のある fruit の謎に迫ります。
数えられる普通名詞の顔と、数えられない物質名詞としての顔をあわせもつ fruit の使い方は、奥が深いのです。

## Google 検索による「件数比較」の実際

検索したい語群を**半角の英文字引用符で囲んで** Google 検索します。検索結果の冒頭に「〜件」と出ます。検索した表現が使われているサイト数の概算推定です。数字が多ければ、表現がそれだけ使われているということ。
(Google 検索では「設定」→「検索設定」で、「地域の設定」と「Google サービスで使用する言語」を変更できます。言語を英語に設定すると、「〜件」は “〜 results” と表示されます。本書で件数検索をかけるとき、日本語表現は「日本／日本語」の検索設定で検索し、英語表現の件数検索は “United States／English” の検索設定で検索しています)

**検索対象の語群を半角の英文字引用符で囲うと、語順が異なったり別単語が加わったりしたものが除かれる** ——これは必須ポイントです。

例えば、「学校に行く」と「学校へ行く」を比べると

“学校に行く”　25,700,000件
“学校へ行く”　1,500,000件

日本語ネイティブから見ればどちらの表現も100％正しいですが、検索結果には17倍もの差がついています。(検索件数は Google システムによる概算推定なので随時変わります。上記はあくまで本書執筆時の検索結果です)

繰り返しになりますが、検索対象となる表現をかならず半角の引用符で囲むこと。引用符で囲まずに検索すると、こんな結果が出てきます。

学校に行く　153,000,000件
学校へ行く　151,000,000件





上の153,000,000件はおそらく、「学」「校」「に」「行」「く」の文字が何らかの形で含まれているサイトの総数、ということなのでしょう。半角引用符で囲むことではじめて、「学校に行く」と「学校へ行く」の比較ができるわけです。

ショバのルールがわかったところで、皆さんに質問します。

「学校で行く」という日本語はありうるでしょうか。考えてみてください。

ぜったいに言わないですかね。

「わたしは毎日学校で行きます」なんて言うわけがないですよね！

「学校で行く」という日本語はぜったい間違い！と考えるかたは、この行の欄外に「×学校で」とメモしておいてください。

さて、では “学校で行く” を検索してみましょう。

“学校で行く”　15件

たったの15件です。これはもう、完全にペケですね！

……ところが検索結果を見ていくと、日本語ネイティブの目から見て正しい表現がいくつもあるのです。

- 沖縄に修学旅行に**学校で行く**らしいんですけど行きたくありません。
- 5月の半ばに**学校で行く**キャンプがあります。
- **学校で行く**遠足は school trip や school excursion と呼ばれます。
- 「社会科見学」というと、**学校で行く**ものというイメージがありますが、施設によっては個人や家族単位での見学を受け付けてくれます。

—— いかがですか。「学校で行く」は gò to schóol (通学する) な

いし gò to the schóol（学校施設へ出向く）という意味では使えない。しかし gò sómewhere as párt of the schóol activìties（学校行事の一環としてどこかへ行く）の意味では成立するわけです。

章のはじめになぜ「学校で行く」を取り上げたか。

英語学習書や英和辞典を見ていると、「〜という表現は間違いだ」という解説をたびたび目にします。英単語の正しい使い方を教えようとの趣旨ですが、これが往々にして舌足らず。ちょうど「“学校で行く”とは絶対に言いません」と言い切っておしまい、みたいな。言語表現としては「学校で行く」が成立する場合も多々あるのに。

## an enormous fruit は間違いか

第1章の桃太郎の文章題 Q5（D）に、こんな文があります。

The wóman nóticed an enòrmous frúit.
（女はどでかいくだものに気がついた）

ところが、ある学習書にこんな解説がありました。

fruit は、ふつう数えられない名詞で、いつも単数形で使われ、a はつけません。

『日本人に共通する英語のミス121　改訂新版』（ジェイムズ・H・M・ウェブ James H.M.Webb 著、1991年刊。以下『英語のミス 1991』と略称）の p.6 の記述です。「a はつけません」ということなら、an enòrmous frúit は英語として間違いなのでしょうか。

an enòrmous frúit ではなく an enòrmous pìece of frúit のように言わなければならないのか。あるいは単に不定冠詞を削除して The wòman nóticed enòrmous frúit. とすべきなのか。





英英辞典で peach をひくと、疑問はあっさり解決しました。

**peach:**

- a ròund frúit with a sòft rèd-and-òrange skín（*Collins COBUILD Primary Learner's Dictionary*）
- a jùicy frúit with óne làrge séed and a sòft yèllow or pìnk skín（*Longman Basic English Dictionary*）
- a sòft, swèet, ròund frúit with rèd and yèllow skín（*Cambridge Essential English Dictionary*）
- a sòft ròund frúit with a yèllow and rèd skín and a làrge hàrd párt（càlled a pít）in the cénter（*Oxford Basic American Dictionary*）

どの辞書にも “a ＋形容詞＋ fruit” という表現が見えます。この流儀でいけば an enormous fruit も問題ない。

それぞれの語釈を和訳しておきましょう。

・丸いくだもので、柔らかくて赤みがかったオレンジ色の皮つき
・汁気の多いくだもので、1個の大きな種があり、柔らかい黄色またはピンクの皮つき
・柔らかく甘く丸いくだもので、赤や黄色の皮つき
・柔らかく丸いくだもので、黄色や赤の皮つきで、中心に大きく固い部分（pit と呼ぶ）があるもの

## 不定冠詞が意味することは

a ròund frúit（丸いくだもの）は a ròund táble（丸いテーブル）と同じレベルで正しい。